TAKASHIMAYA *art information*

髙島屋大阪店 6階 美術画廊のご案内 2026 11・12月

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては髙島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※展覧会内容は変更・中止になる場合がございます。
※作品によっては、会期前に売約済みとなる場合がございます。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

11月4日(水)～9日(月)

傘寿記念 六代 川端 近左 漆芸展

このたび川端近左先生の傘寿を記念した展覧会を開催させていただきます。伝統と歴史ある茶の湯、お道具の用の美にかなった彩り豊かな漆芸作品を制作される先生は、大阪市に生まれ、京都市立芸術大学を卒業後、父・五代に師事し、六代を襲名されました。今展覧会は蒔絵を中心に漆絵、イジ塗や錆塗など様々な技法を駆使し、常に新しいアイデアと挑戦をもとに、自身の想いに妥協せず創作された、貴重な作品を一堂に展観いたします。ぜひご高覧ください。



「紅葉流水蒔絵大棗 内銀溜」

11月11日(水)～16日(月)

彫刻になった生き物たち

木、ブロンズ、石、テラコッタなど色々な素材による個性的な表現の“彫刻になった生き物たち”をぜひご高覧ください。

〈出品予定作家〉

秋山 隆	明田 一久	いしばしめぐみ	エサシトモコ	榎戸 項右衛門	遠藤 幹彦
加藤 貴志	神崎 泰志	木村 俊也	新谷 一郎	新谷 聡子	神保 琢磨
杉浦 康司	征矢 剛	玉野 勢三	野桑 敏哉	橋本 和明	平野 千里
平松 嵩児	藤本 明洋	丸山 達也	横田 千明	吉川 かおり	ほか

（敬称略・50音順）



平野 千里「福羊」
(20×20×高さ14cm※台座含む)

11月18日(水)～23日(月・祝)

第40回 青渕会 −標−

故・大山忠作先生によって命名された青渕会も最終回となります。成熟し、互いを尊重しつつ美の神髄を洗練させてきたことでこそ成し得た、標としての集大成をぜひご高覧ください。

〈出品予定作家〉岡 信孝　奥村 美佳　小田野 尚之　川島 睦郎　川嶋 渉
竹内 浩一　土屋 禮一　牧 進　森田 りえ子　森本 純
山田 伸
〈特別出品〉松本 勝　（敬称略・50音順）

※森本純先生の作品は抽選販売とさせていただきます。



森田 りえ子「秋華」(12号)

11月11日(水)～23日(月・祝) ※11月17日(火)は開催いたします。

福福吉祥 展

日本画・洋画の人気作家による、富士・松竹梅・干支の未など、吉祥モチーフの作品を一堂に展覧します。それぞれの作家の個性が溢れる作品の数々をぜひご高覧ください。



平良 志季
「この年をお願い」
(4号)



粂原 愛
「梅見月 伍」
(6号)

11月25日(水)～30日(月)

灰原 愛 展 空と花と人と

東京藝術大学、大学院で学び修了翌年から積極的に作品を発表、海外でも人気の灰原先生の3年ぶりの個展です。アクリル絵具で彩色された優しさあふれる色をまとう少年少女の作品はこどもの頃の素朴さや、自然の中で不思議さを感じたり夢をみた頃を思い出させます。



「花になる夢を見る」
(31×31×高さ24cm)

西久松 綾 展 −生命のすがた−

百貨店では初となる個展を開催します。西久松先生は様々な水中生物を飼育し、日々観察を行い、「研究成果」として作品制作をされています。生き物たちの豊かな表情や関係性が緻密かつコミカルに表現された作品をぜひご高覧ください。

「霧の隠れ里南丹河床図」(6号)



TAKASHIMAYA Art Information 2026 11・12月

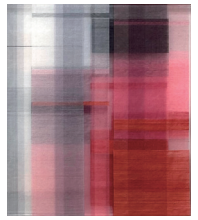
髙島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては髙島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※展覧会内容は変更・中止になる場合がございます。
※作品によっては、会期前に売約済みとなる場合がございます。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

11月4日(水)▶16日(月)

※11月10日(火)は開催いたします。

寺川 真弓 織展 −天の虫−



寺川先生は、自ら蚕を育て、繭から糸を引き、草木で染めて繰り上げる染織作家です。自然の循環と生命の営みに寄り添いながら、糸の表情や柔らかな色彩によって風景や光の気配を詩情豊かに表現します。工芸の技術と深い精神性が融合した、温かく静謐な作品をお楽しみください。

「Light Field 1 紅」
(73×63cm)

高島屋のサステナブル・アクション TSUNAGU ACTION

11月18日(水)▶30日(月)

※11月24日(火)は開催いたします。

新宮 さやか 展



新宮先生は、1979年大阪府生まれ。2001年に大阪芸術大学芸術学部工芸学科陶芸コースを卒業後、植物の形態をした陶のオブジェを制作して注目を集める気鋭の作家です。針状に埋め尽くされた花芯、大きくゆらぐ花弁など、その蠢くような妖艶な美しさには、作者が思う自然の在るものたちへの畏敬の念がこめられています。今展では、花のオブジェ、蓮の葉や、器形に花弁を施した新たなタイプの作品も加え発表いたします。陶によるモノクロームの幻想世界をお楽しみください。

「熾の陶」(42×38×高さ27cm) 撮影:淵 忠之

12月2日(水)▶14日(月)

※12月8日(火)は開催いたします。

呉 亜沙展 −聞いてるし、聞いてない−



日々の暮らしの中で出会う風景や人との関わり、心の奥にある記憶や感情など、目には見えない存在を、柔らかな色彩で繊細に表現される呉先生の待望の関西での初個展です。人間が整備した都市空間に蔓延(はびこ)る雑草、その対比に大人とこどもを投影し、未熟と成熟の間に自身がいることの再認識の表れとなる作品をお楽しみください。

中央:「mute」(10号)
左右立体(ペア):「behind the words」(左:19×19×高さ56cm・右:18×18×高さ55cm)

12月2日(水)～7日(月)

那波多目 功一 展 散華－花を描き、生命を謳う

那波多目功一先生は、17歳の若さで再興第35回院展に初入選を果たすなど、院展を中心に作品を発表し、2002年に日本藝術院会員に任命、2024年には文化功労者に顕彰されました。本年7月に惜しくも急逝された那波多目先生の最後の展覧会として、昭和－平成－令和と花を見つめ、いのちを描いた作品の数々を一堂に展覧いたします。ぜひご高覧ください。



「雪中寒牡丹」(50号)

12月9日(水)～14日(月)

松﨑 和実 展 30－The Next Step

水墨画に始まり、箔を使った魚、鳥、龍をはじめとする霊獣、干支の動物…と様々なモチーフを手掛けてこられて30年。ご覧いただく方々の「次なる一歩を踏み出す一助になれば」という思いを込めて描き続けてきた、30年の画業の変遷をご高覧ください。



「獅子図Ⅱ」(3号)

中村 紀興 展 －欧州の想い出－

中村紀興先生はスウェーデンで生活しながら、感銘を受けた欧州各地の風景を描いた作品を発表されています。今展では、スウェーデンで春になると咲き誇る『一輪草』など『花』をモチーフにした作品も多数展覧されます。ぜひこの機会にご高覧ください。



「シリアン湖」(10号)

12月16日(水)～21日(月)

山内 滋夫 展

山内滋夫先生は、約5年間の滞仏生活で、西洋美術の根底にあるリアリズムと厳格な造形思考を学ばれ、帰国後は東洋の美意識と西洋の理知的な造形思考を融合させた独自の大胆な絵画表現で高い評価を得ています。今展でも花や静物をモチーフに、計算し尽された構図と色彩バランスを持った作品を展覧いたします。



「芥子と豌豆の静物」(10号)

渡辺 国夫 作陶展

渡辺先生の作品は、幾何学模様がいくつも配置され、幾層にも重ねられた色彩が織り成す「色絵の世界」です。色のハーモニーが生み出す美しさに心を奪われ、その探求は終わることを知りません。「積奏彩」と名付けた渡辺国夫の世界、一歩ずつ積み重ねてきた軌跡をぜひご高覧ください。



「積奏彩青晶文壺」
(径18.7×高さ24.5cm)

12月23日(水)～1月4日(月) ※12月29日(火)は開催いたします。

現代工芸家による 新春を寿ぐ作品と酒器展

国内外で活躍中の作家や、今後の活躍が期待される作家16名による、新春を迎え、心新たに愛でていただける床飾りや茶道具、うつわなどの作品を中心とするグループ展を開催いたします。さらに年末年始の酒席にお使いいただけるように、各作家によるぐい呑、徳利、片口などの酒器もあわせて展観いたします。

【陶磁器】　井倉 幸太郎　井尻 杏那　井上 真利　植田 麻由　吟　　子　田中 哲也
　　谷口 晋也　中村 宏太郎　中村　幹　　鳰　　西　　崇　松田　昂
【ガラス】　大西 未沙子　佐々木 伸佳　白藤 晴久　田仲 哲也　（素材別・敬称略・50音順）

白磁 鹿谷 敏文 陶展

この度、鹿谷敏文先生の初めての個展を開催する運びとなりました。高校卒業後、中村清六先生に15年間師事し独立、現在は福岡県北九州市を拠点に活動しておられます。独立してから修行時代の15年を超える年月が過ぎ、石を生かし石に生かされ30有余年、先生の薫陶を守って轆轤とともに歩んでこられました。初心に変わらず今もなお手づくりにこだわり、一つひとつ心を込めて轆轤を回し丁寧に仕上げた作品を、ぜひご高覧ください。



「白磁壺」(径15.5×高さ30.0cm)

Takashimaya OSAKA

TAKASHIMAYA Art Information NEXT

2026 11・12月

高島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

12/16(WED)▶28(MON)　※12月22日(火)は開催いたします。

田中 福男 ガラス展



透明なガラスの中に広がる凝縮された内なる世界。高度な「インサイドアウト」技法によって生み出される繊細な模様は、花や葉脈、雪の結晶など自然の美を想起させ、純金や純銀を用いた独自の発色は奥行き感を生み、静謐さと生命力を同時に感じさせます。出生地大阪での初個展となります。

「還れない花」(4×3.4×高さ2cm)

12/30(WED)▶1/11(MON・祝)　※1月5日(火)は開催いたします。

田中 武 個展「と」－The Spectrum Between－



美術館を中心に作品展示をしてこられた田中先生の2年ぶり2回目の個展。円山応挙研究で博士号をとられており、作品の端々にその影響をちりばめながら、現代社会をみつめる視線を感じる作風で現代美術家として一目おかれる存在です。今個展のテーマは「と」。様々なものを分けて認識することから生まれる二つのものの間に置かれる「と」。二つのものは本当に分かれているのか、あわいのような領域はないのかを色のスペクトラムで映しだす新作約20点をお楽しみください。

「スペクトラムを駆け抜ける」(10号)